

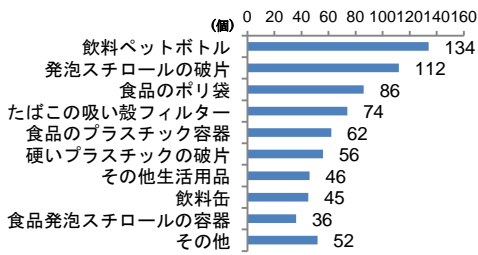
原田ゼミナール

海老江干潟(大阪・淀川)での調査

川から海へ流れ出すごみの回収と実態把握を目的とし海老江干潟は、数多くの種類の野鳥が観察できることから人気スポットとして知られています。しかし、その一方で漂着ごみや不法投棄されたごみなどが、多く存在しそれが原因で干潟の美しい景観が損なわれています。

この活動は、NPO 法人ゴミゴ・ゴミ拾いネットワークのみなさんが中心となっている活動で私たち原田ゼミナールはボランティアスタッフとしてこの活動に参加しており、毎月第2日曜日の午前10時から12時までの2時間を淀川駅から歩いて2分ほどの場所にある左岸側で清掃活動、漂流ごみの調査を行っています。

海老江干潟で回収されたごみTOP10



海産天然遡上鮎の復活プロジェクト

現在、ダムやコンクリート堤防(毛馬水門等)などの河川構造物により、鮎の遡上ができなくなっており、ダムやコンクリート堤防の下に停留した鮎たちは、カワウなどの鳥類やスズキなどの肉食魚に捕食されるかで、遡上できずに鮎の数が減少しています。鮎以外にも、ウナギやカジキなどの生態系などの影響を与えていて、そこで私たちのゼミでは、天然遡上鮎の復活のために、桂川の鮎の稚魚を捕獲して、大きさや数を調査して、上流に放流している活動を行っています。



桂川(京都市)



毛馬水門(大阪市)



投網は、投げる技術が必要で、大変でした。



天然鮎(京都市)

冠島(京都府舞鶴市)での調査

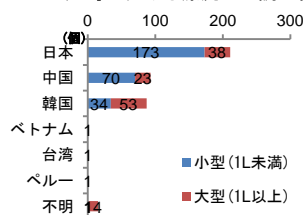
冠島はオオミズナギドリ(オオミズナギドリ)の保護のため文化庁の許可がなければ立ち入ることができない無人島です。この調査では、漂着ペットボトルの製造国を明確にすることを、目的に実施しました。ペットボトルのリサイクルマークや、バーコードからどのような国からペットボトルが漂流してくるか調査しました。



オオミズナギドリ



冠島における漂流ごみ調査結果



野原地区における漂流ごみの調査結果

